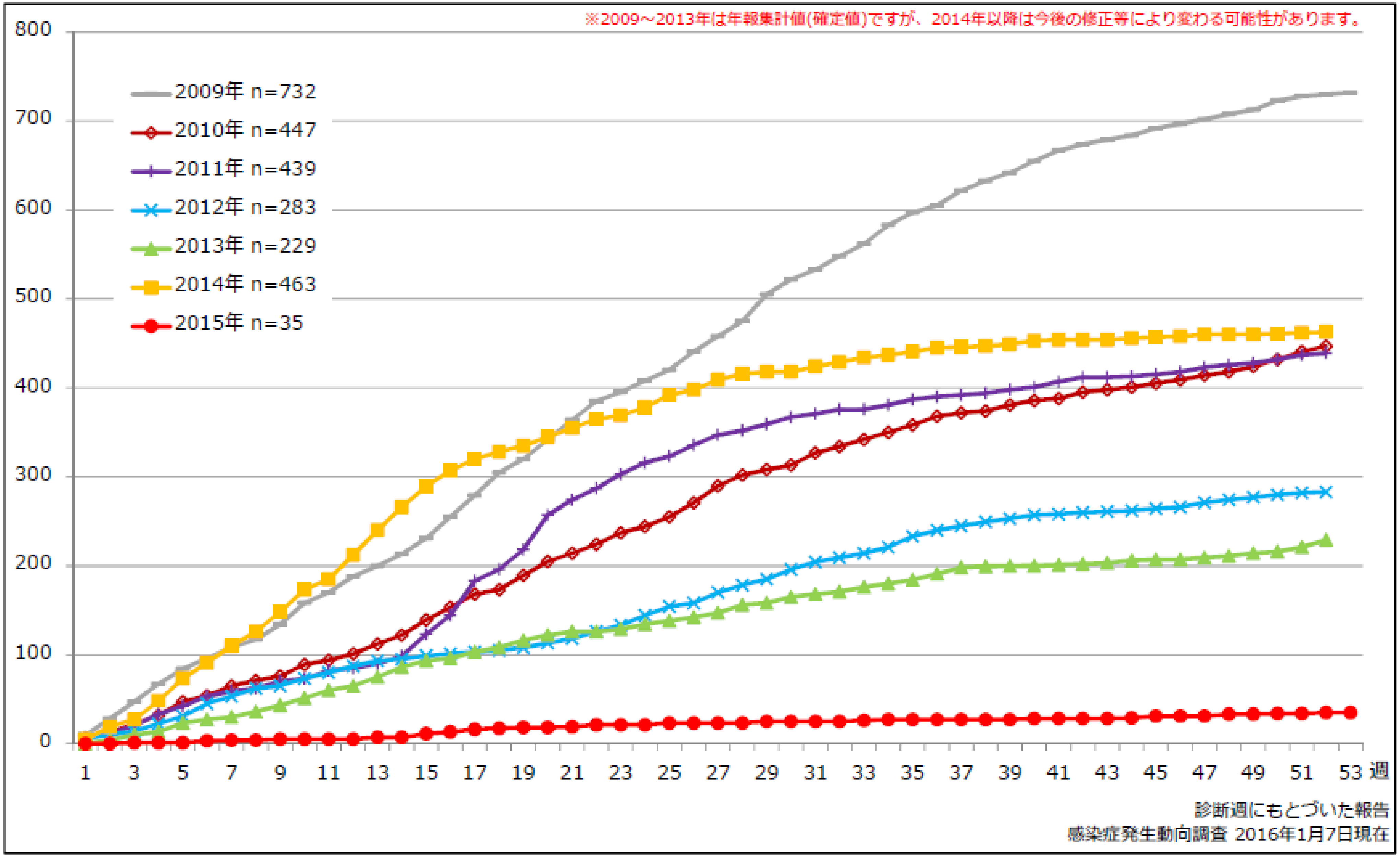
資料1

麻しん･風しんの発生動向の把握及び評価について

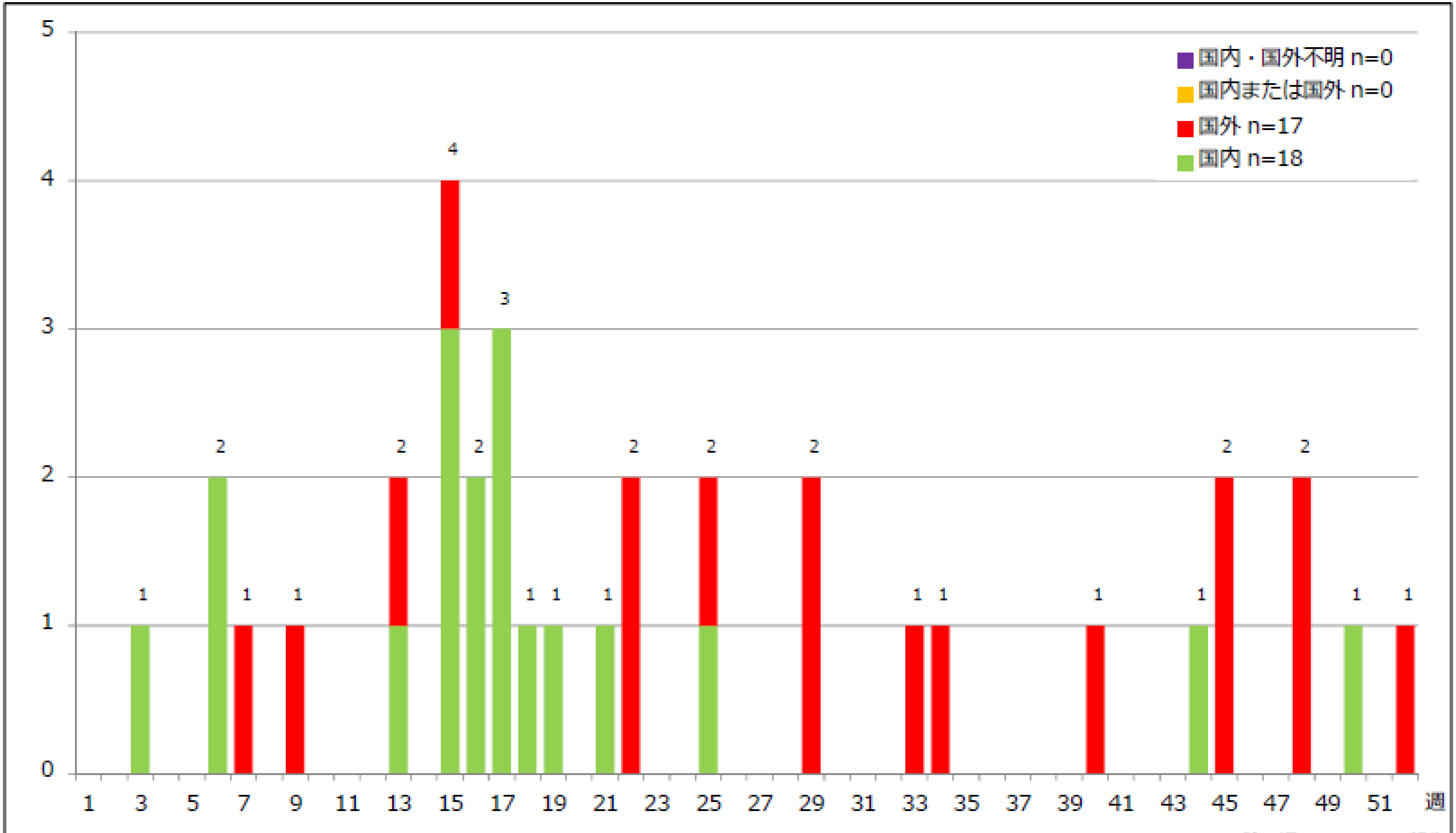
青森県麻しん風しん対策会議
平成28年2月26日（金）

青森県健康福祉部保健衛生課

麻しんの全国累積報告数（2009～2015年）



麻しんの全国週別報告数（2015年　n=35）



診断週にもとづいた報告
感染症発生動向調査 2016年1月7日現在

麻しんに関する厚生労働省通知（2015年3月、5月）

〇平成27年3月27日　事務連絡「世界保健機構西太平洋地域事務局による麻しんの排除認定について」

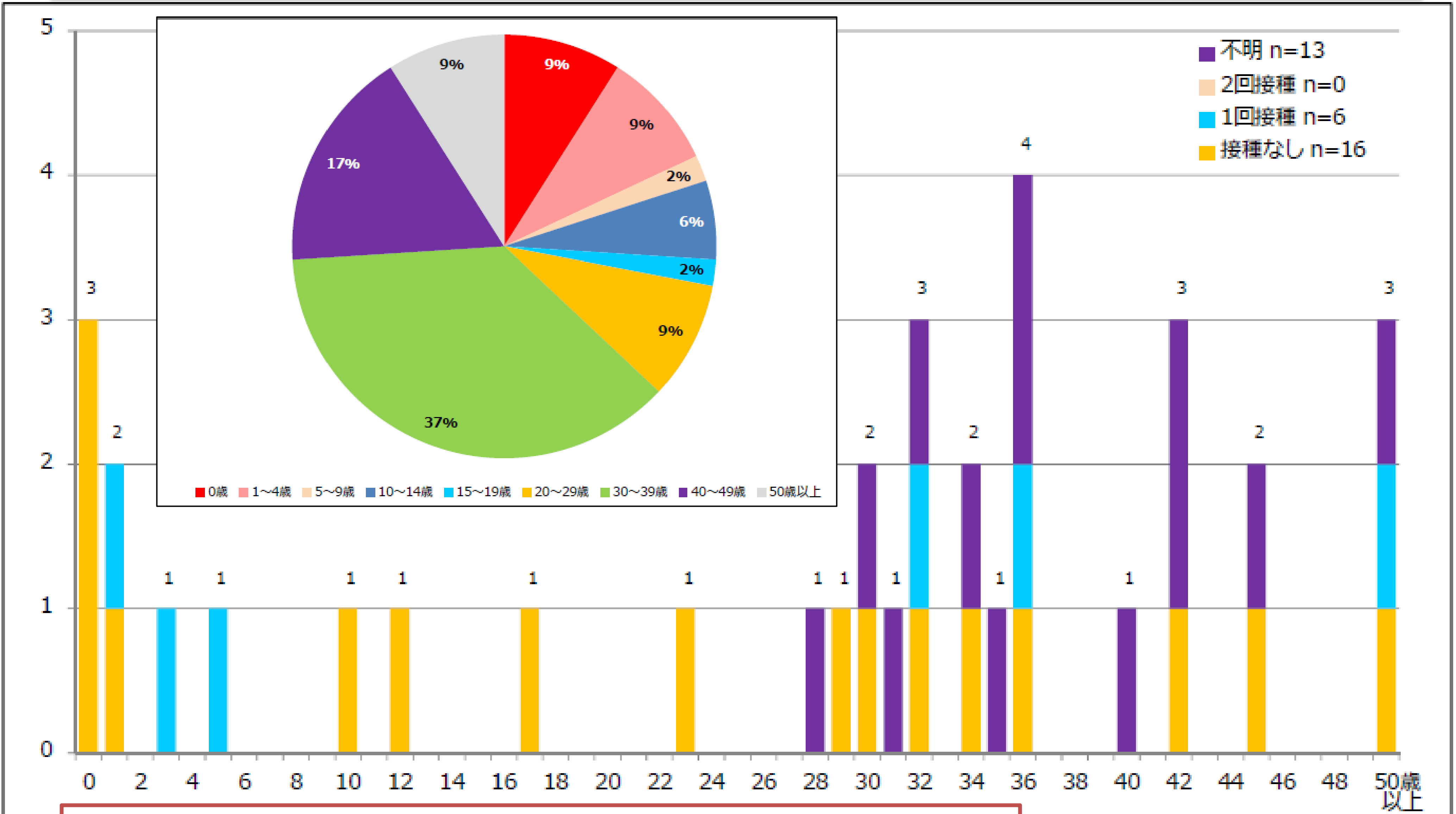
　世界保健機関西太平洋地域事務局により日本が麻しんの排除状態にあることが認定

〇平成27年5月12日　健感発第0512第12号「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部を改正する省令の施行等について（施行通知）」

〇平成27年5月12日　健感発第0512第3号「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について（一部改正）」

　医師が、都道府県知事に対して、患者の氏名、住所等を直ちに届け出なければならない五類感染症として、侵襲性髄膜炎感染症及び麻しんを定めたこと。

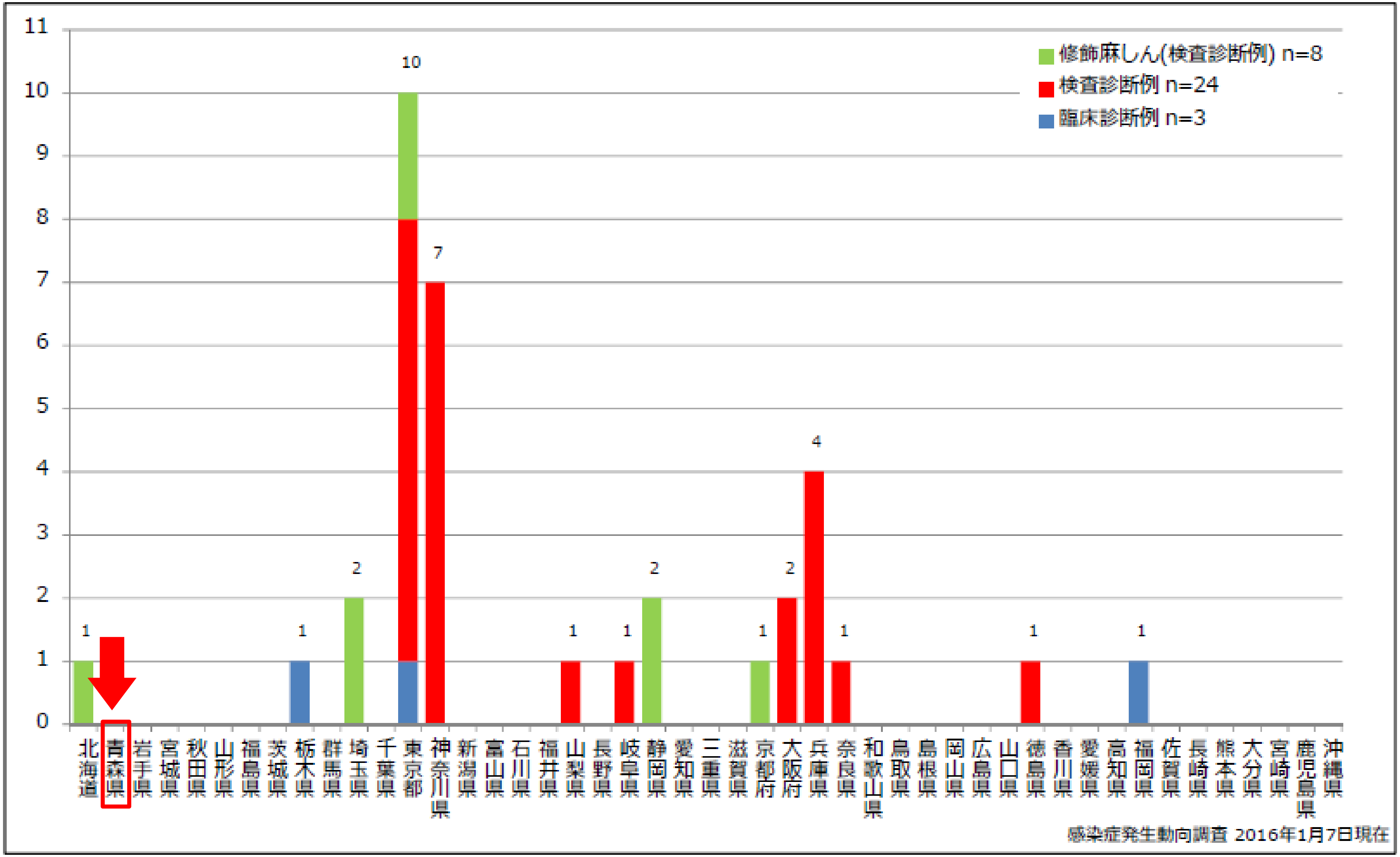
年齢群別麻しん累積報告数割合　2015年　35例



30～39歳、40～49歳の割合が多くなっている。

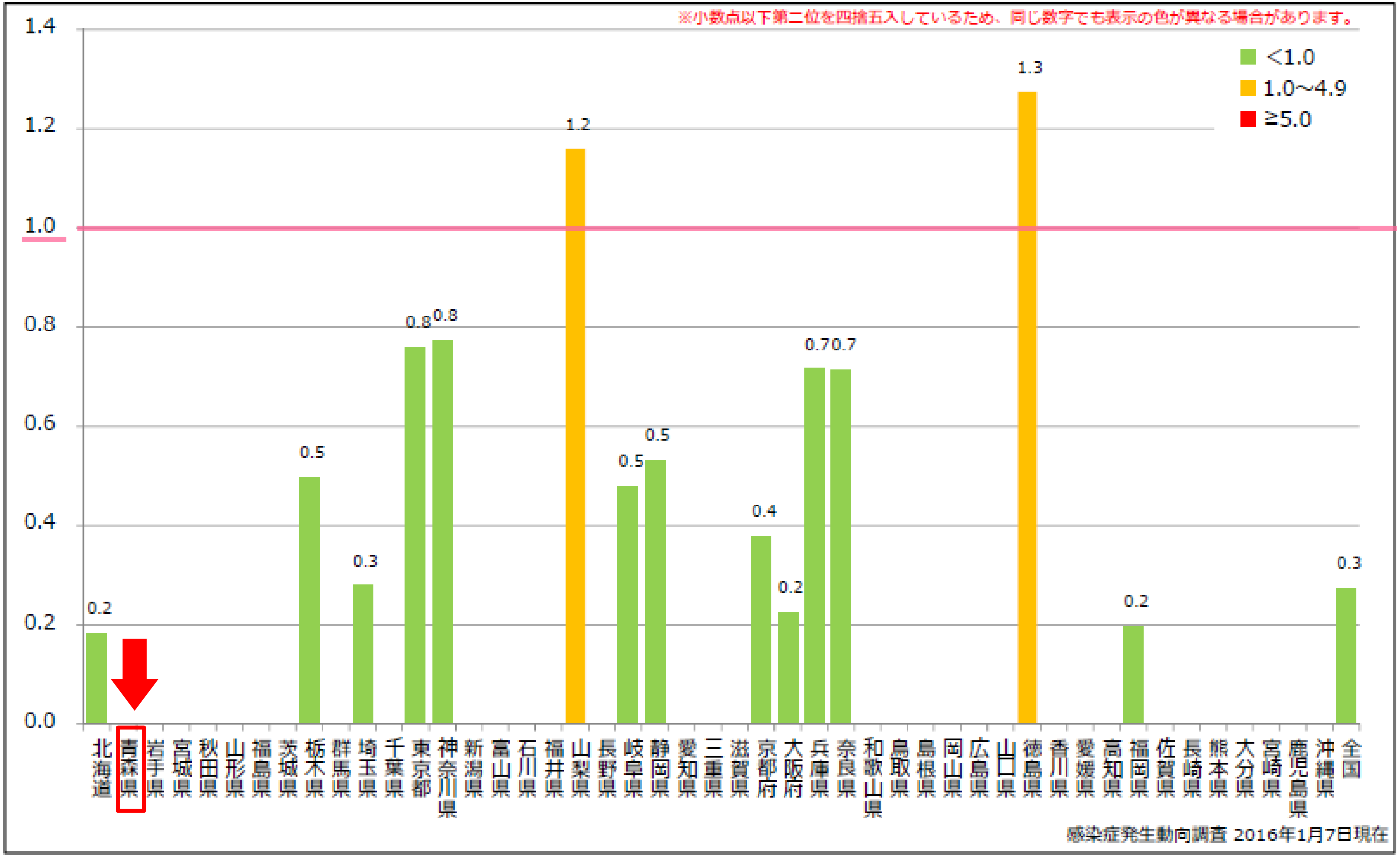
感染症発生動向調査 2016年1月7日現在

麻しんの都道府県別病型別累積報告数（2015年　n=35）



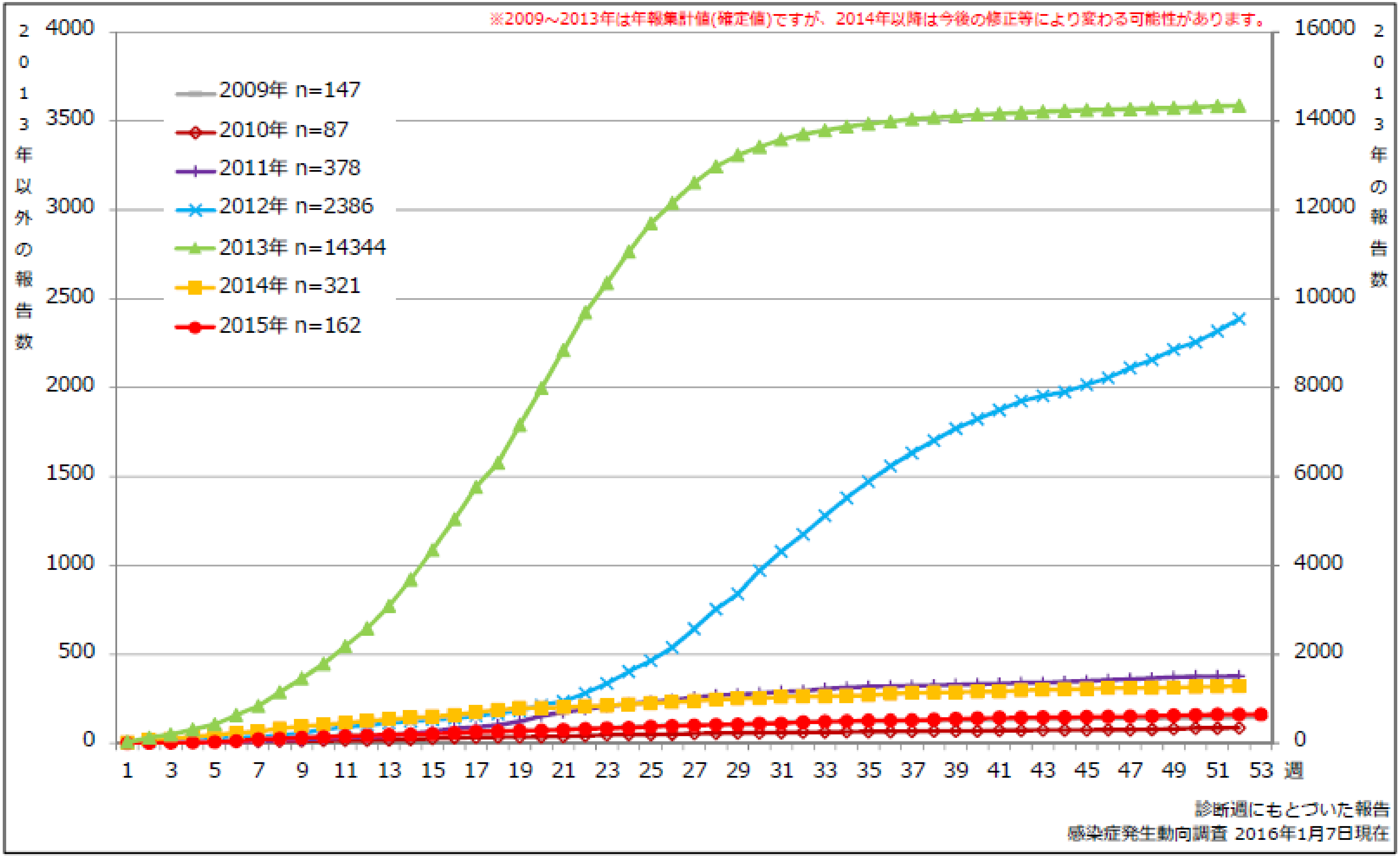
報告数の上位は、東京都（10例）、神奈川県（7例）、兵庫県（4例）

麻しんの都道府県別人口百万対報告数（2015年）

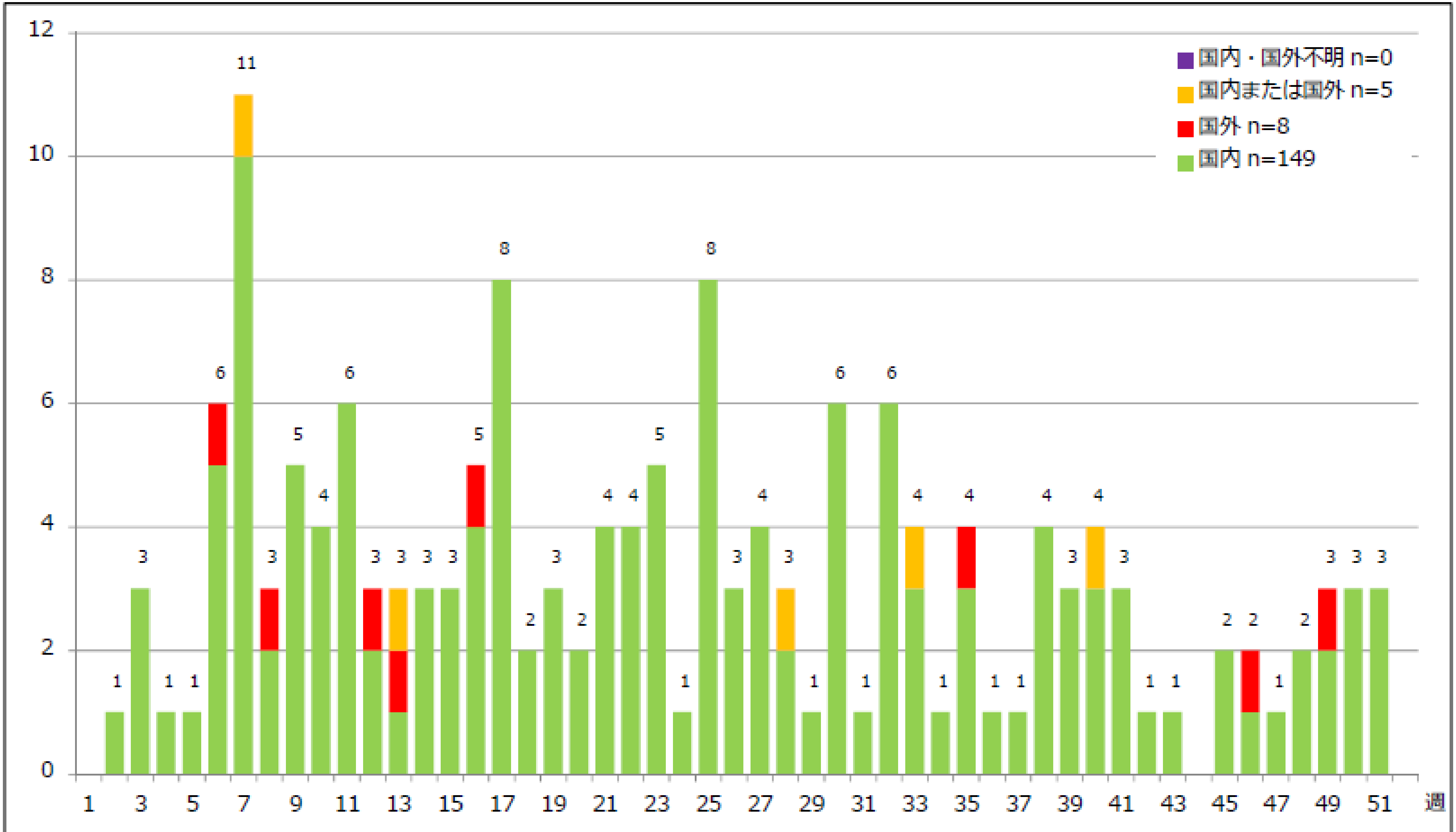


診断にウイルス遺伝子検査を導入し、人口100万人当たり1例未満を達成

風しんの全国累積報告数（2009～2015年）

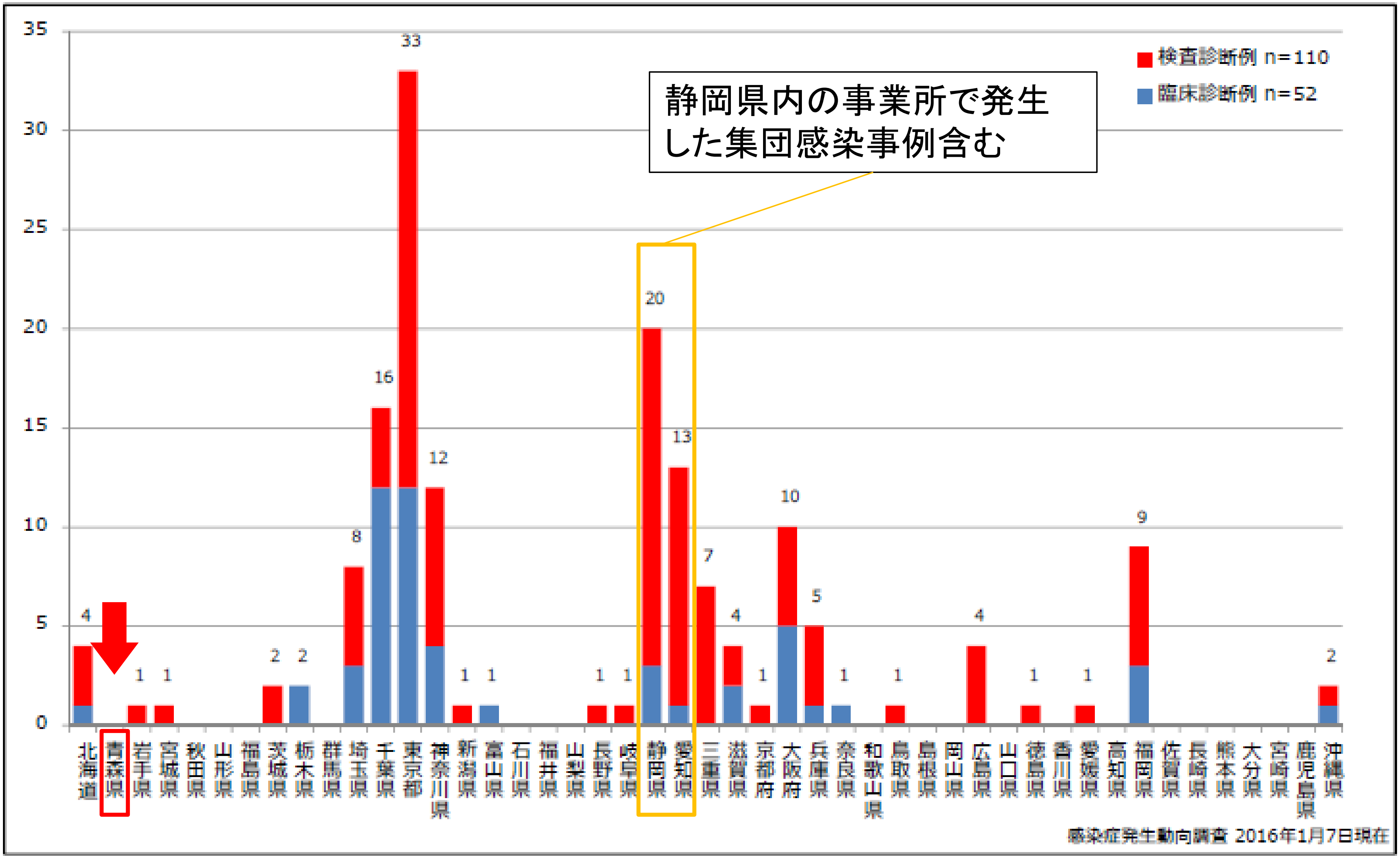


風しんの全国週別報告数（2015年　n=162）



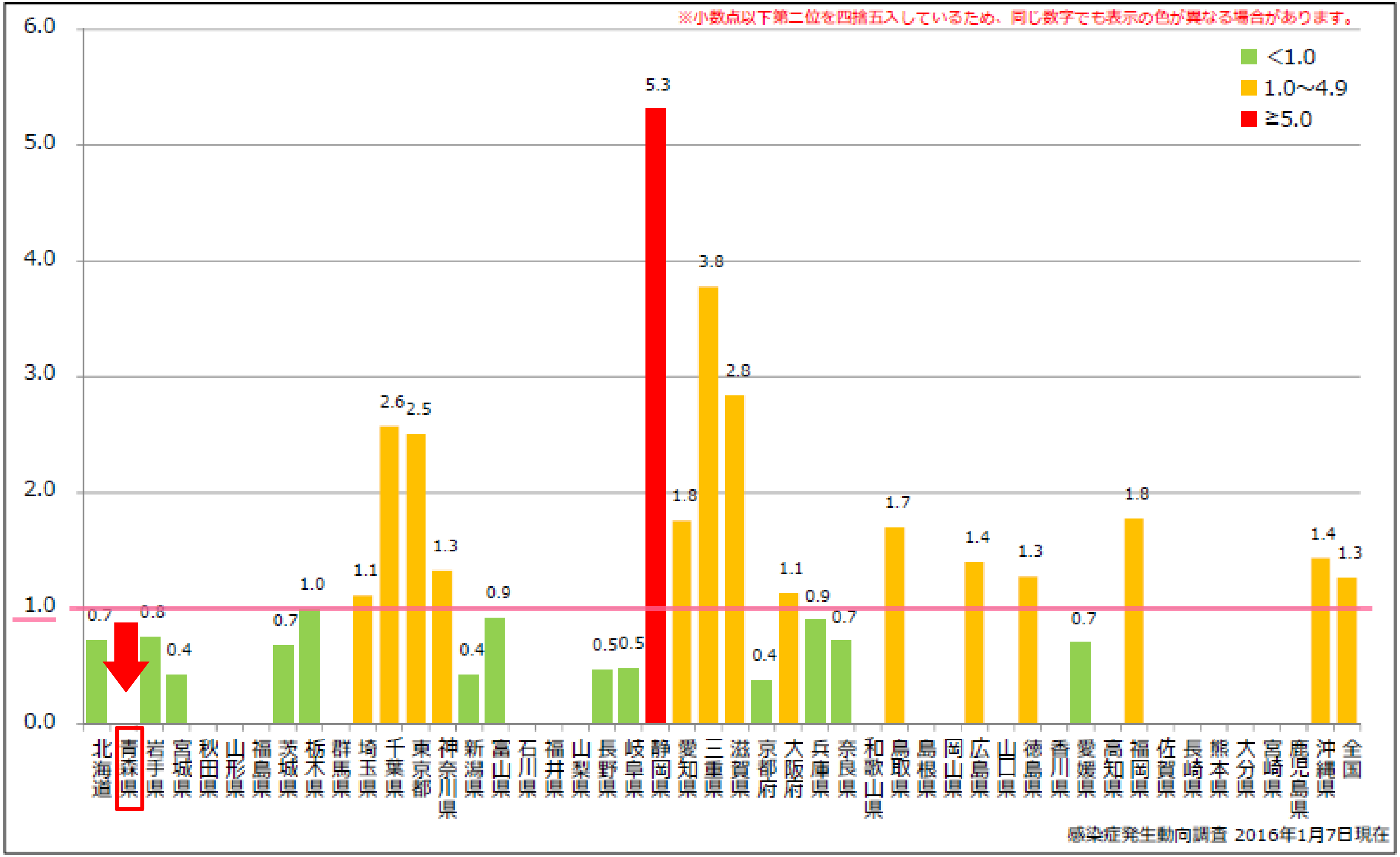
診断週にもとづいた報告
感染症発生動向調査 2016年1月7日現在

風しんの都道府県別病型別累積報告数（2015年　n=162）



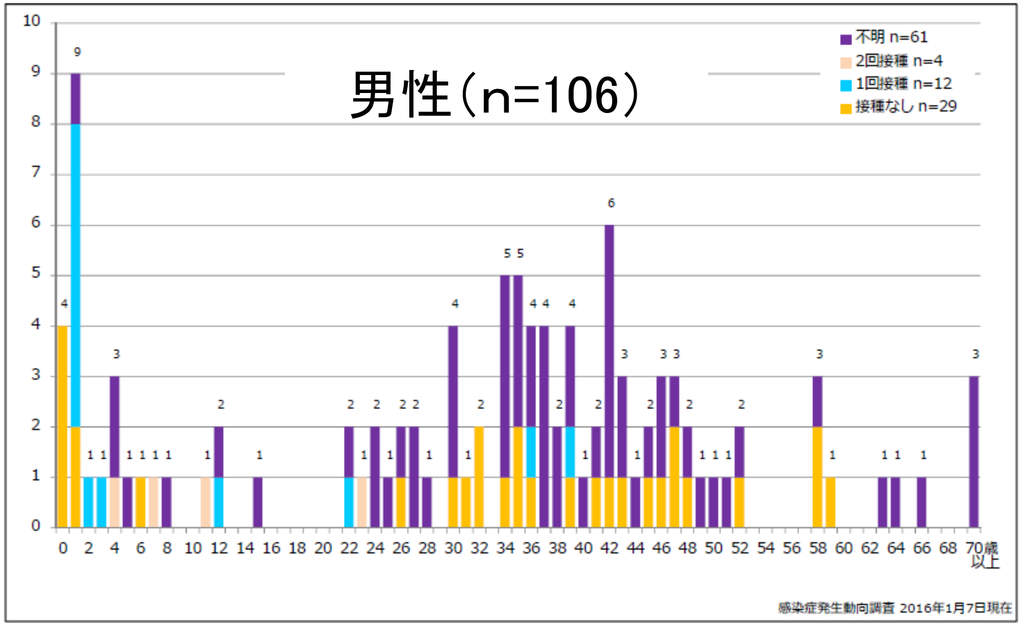
報告数の上位は、東京都（33例）、静岡県（20例）、千葉県（16例）

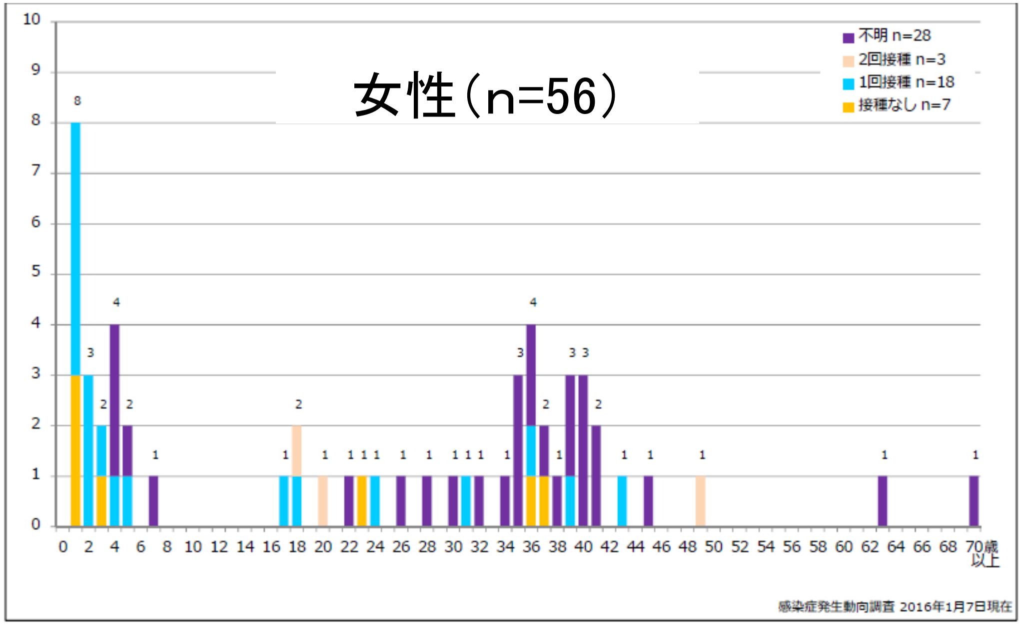
風しんの都道府県別人口百万対報告数（2015年）

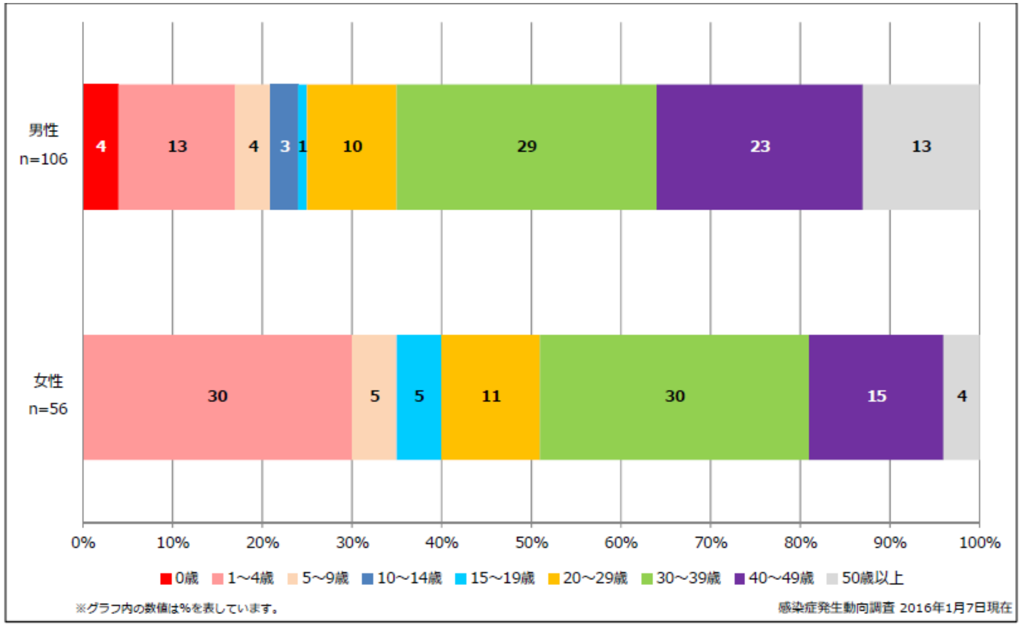


診断にウイルス遺伝子検査を導入し、人口100万人当たり1例未満を達成

風しんの年齢群別接種歴別報告数（2015年）







男性では、30～39歳、40～49歳の割合が多くなっている。

女性では、1～4歳、30～39歳の割合が多くなっている。

（感染症発生動向調査 2016年1月7日現在）

先天性風しん症候群（CRS）の報告

先天性風しん症候群とは
　妊娠20週頃までの女性が感染すると、胎児が感染し、難聴（耳が聞こえにくい）、生まれつきの心臓病、白内障など眼の症状をもった赤ちゃんが生まれることがある。

＜全国における先天性風しん症候群報告数の推移＞

2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
0	1	4	32	9	0

＜青森県における先天性風しん症候群報告数の推移＞

2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
0	0	0	0	0	0

青森県の麻しん･風しん発生状況 （2010～2016年）

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
麻しん	7	0	0	0	0	0	0
風しん	0	0	2	8	0	0	0

麻しんは2011年以降、風しんは2014年以降発生していない。